Style アイコン

【グレタ・トゥーンベリ】

地球環境への危機感示す古着

スカンジナビア版「ヴォーグ」が創刊されました。表紙を飾ったのは、スウェーデン出身の環境活動家、グレタ・トゥーンベリ(18)です。

ストックホルム郊外の森の中で、馬と触れ合う長い髪のグレタが身に着けるのは、廃棄予定だった素材をアップサイクルして作られたトレンチコートや、環境を保護する認定を受けた自然素材を用いた服。とはいえ、これは撮影用の貸し出し商品です。本誌のインタビューでは、「最後に新しい服を買ったのは3年前。それも古着。どうしても必要なときは知り合いから借りる」と語ります。

ロイター

今や世界中で講演をするグレタですが、移動には飛行機でなく列車などを利用し、ビーガン（完全菜食主義者）を貫き、古着または借り着と推測される服を着て壇上に立ちます。こうした行動そのものが、国際社会に対し、地球環境が「切迫した危機」にあるという明確なメッセージになると意識してのことです。

危機を真摯に受け止めよと語る言葉は強く、時に挑発的です。9月末にイタリア・ミラノで開催された「若者気候サミット」でも、各国の「過去30年の怠惰」を非難し、各首相の口先だけの環境政策スローガンを揶揄しました。

3年前にたった一人で始めた「気候のための学校ストライキ」からして怖いものなし。トランプ前米大統領からの攻撃に対してもひるむことなく互角にやりあいました。アスペルガー症候群であることも彼女は長所と受け止めています。「社会の規範に基づいた行動をとらないし、正しいことだと感じれば行動に移すことができるから」と。

連日の脅迫や企業からの嫌がらせにも負けず、警護に囲まれながら気候のための行動を続ける彼女に対する共感は世代を超えて広がり、その声は多くのミュージシャンにサンプリングされています。

大人世代においては、物質的なモノや経験に対するセンスが羨望の基盤を作っていました。グレタ世代では、気候変動に対する感度の高さが文化的ステータスになっていくでしょう。ブランドロゴに代わり、古着のすりきれが誇らしき地位の表象と見られる時代が来ることも予想されます。その時代を先導する一人がグレタ・トゥーンベリなのです。

（敬称略）

（エッセイスト　中野香織）